

令和5年度 研究助成 成果報告書

一般財団法人新潟県建設技術センター理事長 殿

令和6年3月11日

特定非営利活動法人徳合ふるさとの会

代表 塚越 秋三

研究助成事業を下記の通り報告いたします。

記

1. 申請者名 特定非営利活動法人徳合ふるさとの会
代表 塚越 秋三

2. 申請事業名 【環境整備と野生動物との共生に関する事業】

3. 事業の目的

会の活動の本拠である徳合は他の中山間地域同様、高齢化により住民の意欲低下が著しく、いつか故郷が消滅してしまうのではという心配があった。

「魅力ある地域を作り、高齢者にも希望を持ち生き生きと過ごしてほしい。若い地元の人にこそ地域に愛着を持ってもらい、人口流出の抑制をはかりたい」という思いで、20年前から集落内各所に枝垂れ桜を植樹して地域の魅力づくりを行ってきた。国土交通省から「しだれ桜の咲く里への回り道」として日本風景街道の認定を受け、地域の魅力づくりに向けた活動を続けている。現在、徳合には年間に約3000人が県内外から訪れるようになったが、クマやイノシシ等の鳥獣被害が観光面でも生活面でも大きな課題となっている。当事業で鳥獣被害防止のための緩衝地帯を集落と山地との間に再生し、そこに枝垂れ桜や山桜を植樹して、電気柵だけに頼らない鳥獣被害防止策のモデルケースとして取り組むとともに、ふるさとの再発見や地域活性化、観光資源としての一層の魅力アップを目指す

4. 長岡技術科学大学山本麻希先生の3年計画

令和3年に鳥獣被害防止の専門家である長岡技術科学大学山本麻希先生より徳合地域における鳥獣被害対策についてアドバイスを受け、それに基づいた対策を3年計画で行った。

・重点箇所の設定（集落北東「中屋地区」）

先生のアドバイスでは、徳合は集落の中に川や用水路が多く、そこを伝って各方面からイノシシ等が侵入しやすい地形となっているとのことである。集落全体の対策を一度に取り組むことは難しいため、まずは、集落北東の「中屋地区」に集中的に取り組む、野生鳥獣と集落の緩衝帯となる場所を整備することを目標として活動。集落の外周にはうっそうとした杉林が多く、景観を阻害する一因となっている。また、放置された杉林が屋根や雪よけとなることでイノシシなどが居着く場所となり、集落の近辺にイノシシなどが増えることに繋がっている。とのことである。引き続き、杉林の徹底した伐採を行う。

5. 課題を解決するために取り組んだ活動

- ・集落と山地の間の不要木を伐採、木材搬出
- ・下草刈り
- ・桜の剪定
- ・葛葉つる処理
- ・桜の植樹

6. 事業の活動実績

令和5年

- 4月 ・令和4年度購入分 桜苗植樹
 - ・下草刈り、伐採
- 5月 ・伐採
- 6月 ・伐採
- 9月 ・下草刈り
- 11月 ・伐採

令和6年

- 1月 ・下草刈り、伐採、桜の木剪定
- 2月 ・伐採、間伐、木材搬出、木材運搬、葛葉つる処理、桜苗の植樹

2023年は、作業を予定していた6月から8月の気温が高温となり、熱中症が危惧された為、見送りとし、秋より作業再開していたが、12月22日の大雪で、多数の倒木や枝折れが発生した。令和6年に入り、通常予定していた環境整備に加え、倒木処理、桜の木の剪定を行った。

7. 事業実施の具体的な報告

I 下草刈り、不要木伐採、間伐



① 作業前



① 作業後



② 作業前



② 作業後



下草刈り作業前



下草刈り作業後

野生動物の隠れ場所、通り道、餌場となる藪の下草を刈り、不要木の伐採を行った。
(明るく見通しの良い緩衝帯づくり)

雑草や不要木が生い茂っている場所では野生動物が隠れることができ、警戒心も薄くなるため、人と遭遇してしまうことになる。野生動物の行動の拠点になってしまう耕作放棄を作らないこと、周囲の草刈りをこまめに行うことが重要な対策の1つだ。
今回、間伐を行った地表には光が差し込み、景観もよく、見通しがよくなった。

II 高所作業、枝打ち、伐採



枝打ち作業 前 (高所作業車使用)



枝打ち作業 後 (高所作業車使用)



伐採



伐採



伐採



伐採

II 搬出、積み込み、運搬



搬出



搬出



搬出



搬出



積み込み



運搬

伐採後、作業地より切り出された木材を運び出すのは、かなりの重労働だった。重機や人力で、安全に運び出し、積み込み、運搬することができた。2月中旬から下旬にかけて行った伐採作業は、雪の残る日もあり、事故の無いよう細心の注意を払った。

Ⅲ 枝折れ 12月22日 雪害による



作業前 杉



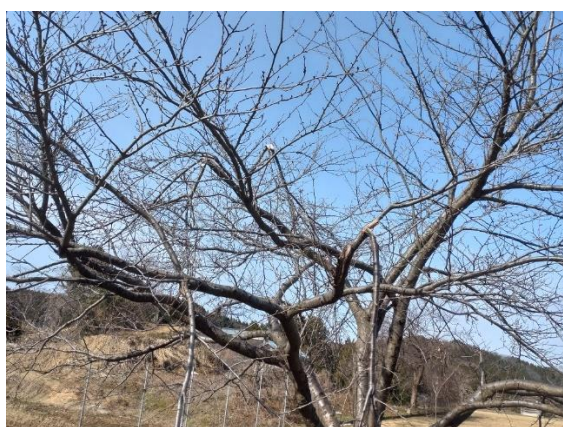
作業後 杉



作業前 桜



作業後 桜



桜 枝折れ多発 未処理



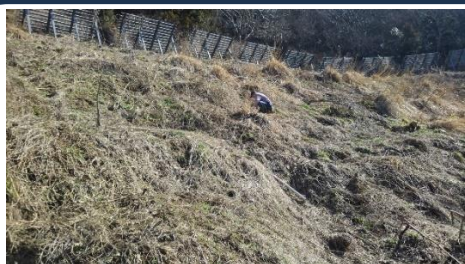
桜 枝折れ多発 未処理

他にも枝折れが多発しているが、今年度では剪定、伐採処理が終わらなかった。

令和5年12月22日の大雪で、杉の木や、桜の木の枝折れ、倒木が多発。
令和6年1月より、鳥獣対策環境整備と合わせ、桜の枝の伐採、枝剪定作業を行った。

倒木した際に付近の物を損傷してしまったり、道をふさいだり、人にケガをさせてしまう恐れもあり、早急に伐採が必要となった。桜の木は、軽度な損傷のものは選定作業を行った。また、残念ながら根元から伐採するものもあった。このような事態に陥る前に予防策として、雪が降る前に、伸びすぎている枝を、少しでも伐採しておけばよかった。それを行うことで、雪の積もる面積を小さくし、被害を最小限にとどめることができたと思う。又、この伐採、間伐、下草刈り作業は鳥獣対策にも繋がっていく。今年度は、高温により作業が延び延びになってきたが、来年度は、年末前に、すべての下草刈り、伐採、間伐、葛葉つる処理作業を終えることを目標とする。

IV 葛葉つる処理



- ① ツルを短く切る
- ② ツルの根元に切り込みを入れる
- ③ 薬剤を打ち込む(楊枝に毒をしみこませてある)

処理前



薬剤ケーピンエース



①ツルを短く切断



②ツル根元に切り込み



③薬剤打ち込み

当初7月～8月に行う予定だったが、作業を予定していた期間、及び予備期間ともに熱中症が危惧される高温となった為、実施を見送り、令和6年2月に実施した。又、作業方法は当初、噴霧器を使い薬剤を散布する予定だったが、ケーピンエース打ち込み方法が葛葉つる処理によく効果あるとの情報を得て、実施することにした。雑草の勢いが弱まっている間に打ち込み実施。まだ、効果が見られないが、今後様子を見て、追加作業も行っていく。

V 桜苗の植樹



令和5年4月6日桜植樹 (令和4年11月30日購入分) 撮影 令和6年2月23日



令和6年2月27日桜植樹 (令和6年2月27日購入分)

今年度は大雪で、かなりの桜の木の枝折れが発生したが、これにめげず、こつこつと毎年少しずつではあるが植栽を続けていく。観光名所にふさわしい環境整備に取り組み続けます。里山の桜街道を保全し、自然環境保全と観光産業を統合しつつ、野生動物との共存をしていくつもりだ。

VI 糸魚川市徳合地区における鳥獣捕獲件数（令和6年2月29日時点）

参考

年度 \ 種類	猪	鹿	熊	*その他
令和3年度 (R3. 4～R4. 3)	23	2	1	2
令和4年度 (R4. 4～R5. 3)	13	2	0	1
令和5年度 (R5. 4～R6. 1) R6. 1. 31時点	11	0	0	8

*その他には、狸、ハクビシン、あなぐま等が含まれる。

令和6年3月4日 糸魚川市役所より回答。令和5年度は現在進行中で、令和6年1月31日時点の集計である。

3年間に渡り、環境整備活動を行ってきたが、一概に野生動物の捕獲件数が減っているとは言えない。令和5年度の雪害で令和6年3月現在も県道が封鎖され、一方通行ではあるが、かなりの時間をかけ、徳合地区へ入らなければならない。捕獲作業もままならない状態だ。しかし、野生動物と共生していくために、自分たちで出来る限りの環境整備活動は続けていく所存だ。

活動を振り返って

3年間の活動を終えて、森の景観は少しずつよくなってきた。

今年度は、異常な高温が続いた為、当初計画予定より大幅な作業のずれが生じた。又、令和5年12月22日の大雪にもみまわれ、多くの倒木、枝折れが発生してしまった。

まだ、倒木の伐採、剪定処理は終わっておらず、令和6年も引き続き行っていく。

年度末となり、急ピッチで作業を進めたが、事故もなく活動でき、安堵している。

糸魚川の地域では高温少雨で、木の実が例年になく不作で、鳥獣の餌不足が問題となった。

畑や家の周りにもイノシシが多く出没した。イノシシも人間慣れしてきている。

人身及び農作物の被害を防ぐため、鳥獣の緩衝帯を常に整備しておくことが重要だ。

藪は鳥獣の潜み場所、すみかとなるので、下草刈りや伐採を行い、見晴らしを良くしておかなければいけない。また、市町村の力も借りて、捕獲作業も実施してもらっている。

そして、捕獲作業だけに頼らず、自らの努力も必要だ。柿や栗の収穫は早めに行う。柿や栗の放置は「餌付け、人身被害」に繋がる。余ったものは除去する。食材や生ごみを屋外に置かない。畑に捨てない。自分で出来ることは実践し、被害を防ぎ鳥獣との共生を図っていかなければならない。単に整備して綺麗にしても継続的な整備が行わなければ意味がないので、整備した後に桜を植えて、その桜の整備をし、観光の拠点とする。古民家や森、畑、田んぼ、どこか懐かしい風景を後世に残す。この思いを胸に、これからも活動を続けていく。人と野生動物が共生する魅力ある里山を創り、次世代に継承していく。里山の豊かな自然、それらに調和した人の暮らし、営みを継承していくために、環境整備は必須の活動であると思う。